発刊に当たって

わが国でも心血管病が増加しています．また透析患者の増加にも歯止めがかかりません．心臓と腎臓は循環動態の調節を通じて相互に影響しあいながら病態を形成していくことが明らかにされてきました．

「心腎相関」という比較的新しい用語はこの重要性を背景にして使われるようになってきたと思われます．心腎相関を取り巻く背景として糖尿病，高血圧，メタボリックシンドロームの重要性も強く認識されてきました．一方，腎不全を含めた腎機能低下・腎障害を慢性腎臓病（CKD）という言葉で統一する動きがあり，急速に浸透し，国民病としての認識が高まりつつあります．特有な病状を呈する透析患者の心血管疾患は循環器内科においてますます重要性を増していますし，腎障害は心疾患の予後を強く規定します．また腎不全患者の循環管理も難しさを増しています．今後は透析の回避とともに心血管イベントの抑制という視点からもCKDへの対策が望まれるところです．

それぞれの領域で診断や治療に新しい方法が展開しつつありますが，境界領域であることから，従来の循環器内科，腎臓内科という枠組みの中で，専門家同士が情報を交換しあい，総合的に病態生理を理解して，患者の診療にあたるという機会は多くありません．心腎相関の悪循環を断ち切るためには専門家が連携をしあって介在治療をしていくことも重要だと思われます．

本書はこのような背景のもとに，診療にかかわる医師が病態を幅広く理解し，問題を共有する基盤をもちたいとの思いで企画されたものです．疾患は高齢者を中心に国民全般に広くわたっており，専門医だけでなく，一般医家やこれからの活躍を目指す若手医師にも，本書を通じてぜひ理解を深めていただきたい領域であると思っています．

企画に当たっては，循環器内科と腎臓内科の立場から2名の編集者が討議を繰り返して，基礎から診療面に至る広い領域でこの新しい概念と問題点を理解し，さらに日常診療に役立てられる知見を含む内容を構成するように努めて参りました．ご執筆をお願いしたのはそれぞれの領域の第一人者の先生方ばかりです．期待に違わぬ内容の深い原稿が寄せられ，全体を通じて「心腎相関」の現状が病態，診断，治療の面から明らかになり，また今後の問題点もみえてきたように思います．読者の皆さんにあっては本書をご活用いただく中で心血管疾患，慢性腎臓病の理解を深め，研究や診療に役立てていただければ幸いです．

最後に，ご多忙の中ご執筆をいただいた諸先生方と，企画以来根気強く編集作業をすすめていただき見栄えのする本に仕上げていただいた羊土社の諸姉に深謝申し上げます．

2007年11月

編集者　東京医科歯科大学循環器内科　磯部 光章
東京医科歯科大学腎臓内科　佐々木 成